

科目名	情報システム（中級編）
担当講師	宮川 裕之
分類	必修
授業時間数（時間）	15.0
授業形態	対面
授業の概要	<p>情報技術の進歩も他の産業の興隆と同様にモノの開発からマーケット指向を経て価値創造の段階へと変化していることについて振り返る。</p> <p>併せて、それぞれの段階における情報人材の能力について触れる。</p> <p>DXの本質である価値創造につながる情報の仕組みを構想し実現していくために求められる専門性について考察するとともに受講者一人ひとりのキャリアアップに必要な学びのプランが立てられることを目標とする。</p> <p>1日目の講義では、情報システム学の要点をいくつかのトピックをとおして学ぶ。</p> <p>2日目の講義は、このADPISA-M全体の講義をとおして得た学びの総合演習である。</p> <p>各自のプレゼンテーションとレビューにより、情報システムアーキテクトとしての専門性の理解をより深める機会とする。</p> <p>総合演習の課題内容については、1日目の講義の最後に説明する。</p>
特色とメリット	<p>ADPISAの学びのベースでもある「広義の情報システム」について扱うことが本講義の特徴である。</p> <p>すぐに理解できる知識や技術はすぐに陳腐化してしまうため、基本的な考え方や近未来に向けたISアーキテクトのマインドセットを持つことで、各人の置かれている状況の違いに応じた対応力の醸成が本講義では期待できる。</p>
学習目標	<p>情報技術の発展・普及と時代が求める専門性・人材像との関連性を説明できるようになる。</p> <p>自己研鑽の学びの計画を立てられるようになる。</p> <p>世の中の現象（問題）を情報システムとして捉え、問題を把握し、情報視点での改善行動につなげる力とは何かについて理解する。</p> <p>ISアーキテクトのマインドセットを身につけ、学びの持続性と応用力を醸成させる。</p>

内容	<p>1日目：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・情報技術の進化と求められる人材像の変遷 ・情報専門領域の中のIS領域 ・情報システムの視点で捉える。 ・機能の視点で捉える。 ・広義の情報システムデザイン ・systemicとsystematic ・ISアーキテクト総合演習説明 <p>・まとめ、気づきシート記入 2日目：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ISアーキテクト総合演習プレゼン&レビュー ・まとめ、気づきシート記入 <p>2日目：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の業務を題材に1日目の学習で身につけたことを適用してみた結果を報告し意見交換、レビューを行う。 <p>(業務への適用は1日目と2日目の間の期間を使って行う)</p>
受講の前提条件	<p>「情報システム学」についての理解は前提としない。業務でのIT活用あるいはシステム実現の業務経験があることを前提にする。</p>
事前学習	<p>以下に示した用語について「ISデジタル辞典」 (https://ipsj-is.jp/isdic/) を利用して、おおよそ、どんなことを意味しているのかについて可能な範囲で頭に入れておくこと (情報システム、情報システムの基本計画、情報システムデザイン、情報システム問題の形成、問題形成、人的機構と機械的機構、情報システム部門の役割など)</p>

事後学習	各人の業務の中で本授業での学びがどのように応用（適用）できるのか考える中で生まれてくるアイデアや疑問を整理する。この後に続く講義の中でのつながりを考える上での準備となることを期待する。
参考文献・オンライン科目	※以下の書籍は授業で利用する教科書としてではなく参考書として示すものである。 『情報システム学へのいざないー人間活動と情報技術の調和を求めて』浦昭二ほか、培風館(2008)。 ※（本学図書館所蔵） 『ユースケースの適用：実践ガイド(2005年初版第6刷)』ゲリ・シュナイダー、ジェイソン・ウィンターズほか、ピアソン・エデュケーション(2000)。